



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<http://www.shizuokabank.co.jp/>

2020年5月11日の決算発表以降いただいた主なご質問とご回答は以下の通りです。

Q1	2020年度の業績予想に新型コロナウイルスの影響をどの程度織り込んだか（与信関係費用、トップラインへの影響）
A1	2020年度の業績予想では、新型コロナウイルスの影響が6月末までに収束に向けた方向性が示され、7月以降はゆるやかに回復していくことを前提に、与信関係費用を130億円としている。具体的には、格下げが見込まれる個社の要因や業績悪化が懸念される一部の業種への影響等を考慮し、平常時の60億円（与信関係費用比率0.05%程度）に＋70億円を加えている。なお、影響が9月末まで続いた場合の増加は＋5億円程度の見通し。 トップラインへの影響はプラスとマイナスの両面があるが、現時点では計画には織り込んでいない。
Q2	資金繰り支援によるリスクアセット増加、自己株式取得、成長投資とのバランスはどのように考えているか
A2	2020年度の貸出金ボリュームの増加率は、足元の資金繰り支援を通じ＋4.4%程度となる見通し。それに伴い、リスクアセットも増加する見込みであるが、自己資本比率への影響は限定的で、普通株式等Tier1比率15%は確保できると考えている。 自己株式取得は、「配当」、「地域経済を守るための資金繰り支援」、「将来に向けての投資」に続く優先順位となるが、第14次中計で掲げる「連結ベースで中長期的に50%以上」を意識し、機動的な実施を検討していく。
Q3	新型コロナウイルスの影響による第14次中計の基本戦略を通じた利益計画の増減について
A3	地域を支える取り組みは第14次中計の実践そのものであり、新型コロナウイルスの影響により大きく変わるものではない。マイナス要因としては、与信関係費用の増加、有価証券運用のパフォーマンス低下、M&A等のディールの延期等が想定される。一方、プラス要因としては、首都圏一極集中リスクを踏まえ、地方の位置づけが見直される機運の高まりが期待できるほか、当行の資本余力（リスク許容度）を活かすチャンスになると捉えている。

SHIZU-GIN



主なご質問とご回答

株式会社静岡銀行

〒420-8760 静岡市葵区呉服町1-10
TEL.054-261-3131 FAX.054-344-0131
<http://www.shizuokabank.co.jp/>

Q4	住宅ローンを含む貸出金の足元の申込状況
A4	住宅ローンは4月の実行が174億円と前年比21億円の増加で推移している。通年の増加率は+4.3%程度となる見通し。 法人の5月15日までの新規融資実績は2,118件、961億円（うちプロパー389億円、保証協会572億円、比率は4:6）。当座貸越等の枠内実行218件、484億円を含めた融資実績は2,336件1,444億円。

Q5	取引先の格下げ・破綻の状況について
A5	4月の与信関係費用は156百万円。倒産は14件、約9億円。前年4月が10件、13億円であり、件数は増加も金額は減少。14件のうち新型コロナウイルスの影響は3件。4月のPDは0.95%とリーマンショック以降の平均を上回るが、零細小口先がデフォルトの9割を占めている。与信残高水準も低く、その多くは保証でカバーされており、PDの上昇が与信関係費用の増加に直結するわけではないと考えている。

Q6	新型コロナウイルスの影響により次世代システム稼働が延期となる可能性はあるか 次世代システム稼働により新たに可能となることはどのようなことか
A6	次世代システムの開発は、新型コロナウイルスの影響下でも計画通り進んでおり、現時点では2021年1月の稼働予定に変更はない。 次世代システムの稼働により、異業種連携のスピードアップやフロント業務の効率化、グループクラウドの活用によるグループ全体の業務効率化等が期待できる。

Q7	システム費用以外で、効率化等により経費削減が見込める分野はあるか
A7	コロナウイルスの影響を踏まえ、今後の店舗のあり方は変わってくると考えている。第13次中計では、店舗網の最適化と人材集約による均質なサービスの提供を目指す営業体制改革を37エリア中16エリア（約4割）で実施したが、第14次中計では8割のエリアでの実施を計画している。あわせて、店舗の外部賃貸や、他行との共同店舗化も視野に入れて取り組んでいく。 また、ATMについては、今年度▲12%の削減を予定している。これを含め2018年度以降の3年間で▲20%の削減を見込んでいる。

以上

SHIZU-GIN